

オンライン資格確認を導入しています!

病院などの医療機関では、患者さまが加入している医療保険を確認する「資格確認」を行います。2021年10月より、オンライン資格確認の本格運用がスタートしております。昨今では、厚生労働省は健康保険証を原則廃止し、マイナンバーカードを健康保険証として利用する「マイナ保険証」に統一するため、2023年4月からマイナ保険証の利用に必要なオンライン資格確認の導入を医療機関に義務化することを定めています。



オンライン資格確認とは、患者さまが医療機関を受診する際に保険証の代わりにマイナンバーカードのICチップまたは健康保険証の記号番号等を用いてオンラインにて資格情報の確認をする制度です。



従来の方では、受診される際に患者さまの健康保険証を受け取り、氏名、生年月日、住所、保険者番号等の情報をシステムへ手入力する必要がありました。この方法では、入力時に患者さまを待たせてしまう、患者さまの保険資格が有効か、保険情報が変わっていないかをリアルタイムで資格確認ができないというデメリットがありました。オンライン資格確認を導入することで顔認証付きカードリーダーにてマイナンバーカードICを読み込ませることで資格情報の確認ができるようになり、患者さまの待ち時間だけでなく窓口業務の簡素化が見込まれます。

鹿児島医療センターでは2021年10月よりオンライン資格確認の運用を開始しております。これまで多くの患者さまにご利用いただいておりますが、周知の方法や初めて利用される患者さまへの配慮など課題もまだまだ見受けられます。患者さまの利便性の向上、業務緩和に向けて、更なる改善に努めて参ります。



診療科紹介

— 不整脈治療科 —



塗木 徳人



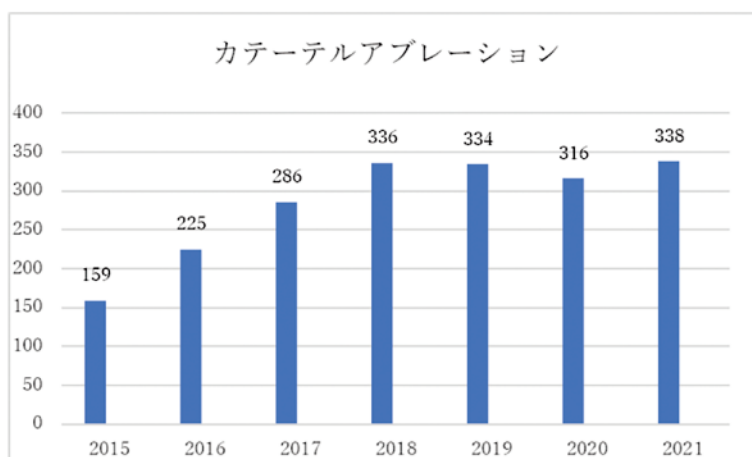
蔡 榮鴻

不整脈治療科が新設され3年経過

不整脈治療科が新設された経緯

不整脈治療は、以前は薬による治療が主でしたが、1980年代から頻脈性不整脈に対しカテーテルアブレーションが行われるようになり、その後大きく進歩してきました。また、突然死の原因の一つである心室細動に対する植え込み型除細動器の登場、心不全に対する両心室ペーシング療法（心臓再同期療法）の出現と、非薬物療法による治療法が次々に開発され、多くの患者さまに恩恵を与えることとなりました。その潮流の中にあつて、不整脈に対する専門的知識、新しい治療法の有効かつ安全な活用の人材の育成の社会的ニーズが高まったと判断し、日本不整脈学会、日本心電学会は、2012年度より、不整脈専門医制度の運用を開始しています。当院でも藺田正浩循環器内科主任部長以下、3人の不整脈専門医が在籍しており、日本不整脈心電学会研修施設です。

当院では以前からカテーテルアブレーション、デバイス治療（ペースメーカ、植え込み型除細動器、両心室ペーシング療法）は行っていました。カテーテルアブレーションは、2013年度159件でしたが、2018年度336件と飛躍的に増加しました。デバイス治療についても、2013年度126件から、2018年度は173件と増加しています。リードスペースメーカや皮下植え込み型除細動器など、新しいデバイスも開発され、当院でもいち早く導入しています。また、デバイス感染などで、デバイス抜去が必要な患者さんへのリード抜去術は、当院が本県で最初に認定されており、県内からご紹介をいただいております。このように不整脈治療に対するニーズが増え、より専門的な知識と治療が求められようになり、2019年6月不整脈治療科として開設いたしました。

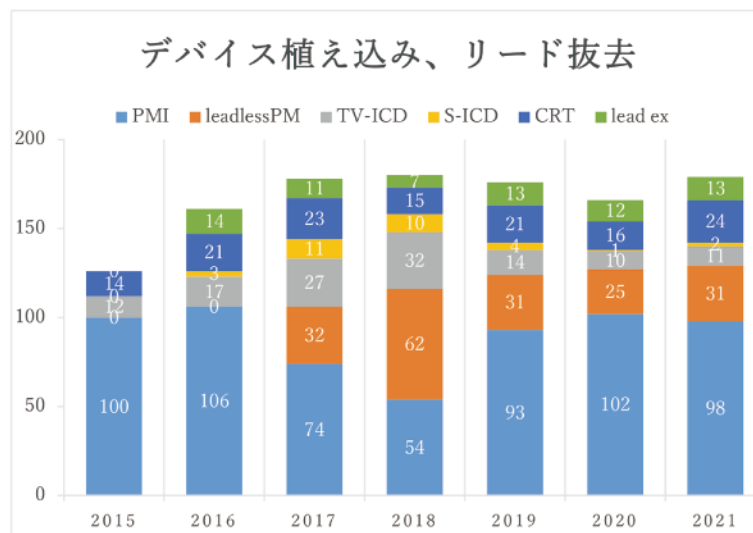


現在の状況と今後

カテーテルアブレーションについては、開設当初と症例数はほぼ変わっていませんが、心房細動の治療に対し、従来の高周波、クライオバルーンカテーテルをおこなっていましたが、2021年にはレーザーバルーンも導入しています。心外膜アプローチにより心筋焼灼術も施行しました。デバイス治療についても、ヒス束ペーシング、左脚ペーシングも取り入れています。リード抜去も年間12~13件で推移しています。

開設当初3人体制でしたが、2022年4月より2人体制となりました。カテーテルアブレーション、デバイス治療は当院の先生方の協力を得ながら、症例数はこれまで通り維持しています。今後も、新しい機器、技術の導入、当院ではまだ施行していない、左心耳閉鎖術の導入も検討しています。アブレーションについては、5~6か月待ちの状態、その解消に努めていますが、カテ室など、ハード面での制限もあり、皆様には大変ご迷惑をおかけしております。より効率的な運用を行い、症例数を増やせるよう工夫を重ねています。より皆様のご期待に添えるようにしたいと思います。

(文責：不整脈治療科部長 塗木 徳人)



PMI：ペースメーカー(リードレスペースメーカー以外)

leadlessPM：リードレスペースメーカー

TV-ICD：経静脈植込み型除細動器

S-ICD：皮下植込み型除細動器

CRT：心室再同期療法

lead ex：リード抜去術

栄養管理室ってどんなところ？

栄養士さんって、
普段どんなことをしている
のだろう？



食事について聞きたいけど、
誰に聞いたらいいんだろう？



みなさん、こんにちは！ 管理栄養士の井上と申します。
今日は、病院にいる管理栄養士が普段どのような仕事をしているかをご紹介します
と思います。
当院の管理栄養士は、「心臓病」「脳卒中」「がん」医療の拠点病院の一員として、
それらに対応する栄養管理、栄養食事指導、食事相談や治療食の献立作成を担って
います。代表的な仕事内容は下記に記載していますので、ご覧ください！

栄養管理



患者さまの病状や身体
状況に合わせて栄養プランを提案
し実施後、評価を行っています。
また、栄養サポートチーム(NST)や
摂食嚥下チーム等多数のチームへ
参画し、適切な栄養管理に努めてい
ます。

栄養食事指導

生活習慣病の治療や再発予防を目的に、
お一人おひとりの生活習慣に
合わせた食事療法の提案を行って
います。



栄養・食事相談

疾病や治療の副作用で「ご飯が食べ
られない」「飲み込むときに痛くて
食事が進まない」などの問題に対し、
聞き取りを行い、食事内容を調整・
検討いたします。



献立作成

治療や再発予防のための献立を
作成し、「治療食」として患者様へ
提供させていただいています。



- ・減塩食
- ・糖尿病食
- ・透析食
- …など

栄養管理について、お困りのことがある際は、いつでも主治医や
管理栄養士にご相談ください！



(文責：栄養管理室 井上 世雅)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

メディカルサポートセンター

地域連携室専用FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

